

意欲を向上させる関わりとは
～McClellandの動機欲求を基に～

郡 愛美

【keyword】意欲、抑うつ

【はじめに】

今回、抑うつ状態による意欲・ADL低下を認めた症例を担当した。内発的動機付けと成功体験による強化に注目したMcClellandの動機欲求を基にした対象者への関わりが、意欲・ADLの拡大に繋がったため、以下に報告する。尚、発表に際し本人に同意を得ており、当院倫理委員会で承認を得た。

【事例紹介】

90歳代女性。抑うつ的であり、倦怠感などから入退院を繰り返していた。3か月前に退院したが、トイレまで移動し排泄することも困難になったことから、抑うつ状態と診断され再入院となった。

【評価】

初回面接では「また入院して、みんなに迷惑かけるから早く死にたいよ」と悲観的な発言が多く聞かれた。Vitality Index (VI):3/10点、機能的自立度評価法 (FIM):87/126点と意欲・ADL低下を認めた。トイレはポータブルトイレにて自立していたが、使用には強い抵抗があった。精神科作業療法は「できないから行かない」と不参加。興味・関心チェックリストは「自分でトイレに行く」ことが挙がり、カナダ作業遂行測定(COPM)にて評価すると、重要性/遂行性/満足度、10/3/3であった。自身の作業歴は、お手伝いさんとして「たくさん人の世話をしてきた」と誇らしく話していた。

【経過】

介入1～2か月は3つの動機欲求に基づいた作業を実施。達成ニーズは、以前から取り組んでいた折り紙や塗り絵の簡単な作業から行い、成功体験を重ねた。親和ニーズは他患者との同一作業を行い、他者交流を促した。支配ニーズは塗り絵をデイルームに貼ることで他者からの称賛を貰う等した。「これ私のだよ」と嬉しそうに絵を指差す様子あり。取り組む内に手先の作業に自信が出てくると、自室でも折り紙を行うようになり、離床時間が延長した。VI:5/10点。支配ニーズに対する反応が特に良かった為、介入3～4か月は支配ニーズを重点的にアプローチすることとした。塗り絵に関わりのあるスタッフに向けて作ることを提案すると、折り紙も「世話になっているからあげたい」と自発的な発言がみられ、同室者に向けて取り組むようになった。上記関わりを継続することで、平行棒内の歩行練習が可能となり、T字杖歩行でトイレまで移動できるようになった。VI:8/10点。

【結果】

VI:8/10点、FIM:107/126点、悲観的な発言は減少した。トイレはT字杖使用し病棟トイレで行えるようになった。精神科作業療法へ参加。「自分でトイレに行く」COPM:重要性/遂行性/満足度、10/8/8となった。

【考察】

トイレまでの移動が可能になった要因は、McClellandの動機欲求を基に関わる中で、特に支配ニーズに重点を置いた作業を実施したことだと考える。塗り絵、折り紙をスタッフや同室者に向けて作成する作業は、他者から称賛され承認欲求を満たし、VIが5点から8点と意欲が大きく向上した。意欲の向上がきっかけとなり、活動意欲も向上し、ADLが改善、そしてトイレまでの移動が可能になったと考える。